

豊平川に野生のサケを増やすための環境づくり

経緯・目的

豊平川生まれの野生魚を増やすために

豊平川では、市民によるカムバックサーモン運動を契機に1979年からサケ稚魚の放流が続けられていますが、最近の調査で、自然産卵由来の野生魚が半数以上を占めることが明らかとなりました。そこで、将来のサケのあり方を考え、豊平川生まれの野生魚を増やすプロジェクトを立ち上げました。産卵に適した環境が年々減少していることから、産卵環境復元を目的に、河川管理者、研究者、工事業者らと連携した取り組みを進めています。

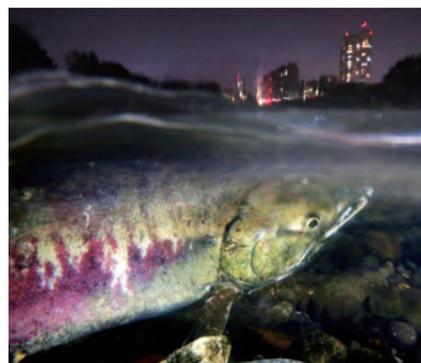
河川管理者（札幌河川事務所）の協力で、工事現場付近で河床を切り下げて産卵場を作る試みに挑戦。

工事業者の協力
産卵が集中する場所の環境改善を工事業者の地域貢献（ボランティア）により実施（重機使用）。

結果が評価される
改善した環境に多くの産卵床が見られ、工事業者は表彰を受けるなど社会的な評価も高まり、現在も活動が継続。



大都市札幌を流れる豊平川には、サケが遡上し自然産卵していますが、産卵に適した環境が年々少なくなっています。そこで、産卵環境復元の取り組みが、河川管理者、研究者、工事業者などの協力と連携により進められています。



豊平川に遡上するサケ

活動のながれ



2018年流路の復元と樹林伐採（地点D） 2017年閉塞した流路の復活（地点C） 2015年人力による河床耕起（地点A）

実施体制・スキーム

札幌ワイルドサーモンプロジェクト（SWSP）は、札幌市豊平川さけ科学館が事務局を務め、国立研究開発法人水産研究・教育機構北海道区水産研究所や国立研究開発法人土木研究所寒地土木研究所などの研究機関や河川管理者である

北海道開発局（札幌河川事務所）ほか地域の有志が連携して事業を進めています。特に、産卵環境の改善には、河川管理者から工事を受注する業者が、地域貢献という形で協力していただくことにより、大きな成果を得ています。

産卵環境改善試験のしくみ



Profile



【河川名】
石狩川水系豊平川
【執筆者】
有賀望（札幌ワイルドサーモンプロジェクト 共同代表）

図面作製や物理環境の計測は寒地土木研究所、産卵床の計数や卵の生存率確認をさけ科学館や北海道水産研究所等が担当するなど、各自が得意な分野を分担して、効果の検証にあたっています。豊平川におけるサケの産卵環境の改善



2018年掘削水路内の産卵床調査

は、漁業者にとってもメリットがありま
すし、SWSPへの理解を求めるために
石狩湾漁協へ事前説明に行っています。
また、河川敷を通行する市民の関心を高
めるために、サケが観察しやすいように
草刈りなどの整備を行いました。



産卵床を守るメスザケ

施工後の維持管理や
利活用の工夫

サケの遡上状況を小まめに調査し、
ウェブサイトやSNSなどで周知した
り、市民や小学校を対象とした観察会を
複数回開催しました。
また、看板を設置し、通行する人への
説明を行いました。



さっぽろワイルドサーモンフットパスの開催

現場のキーパーソン

札幌ワイルドサーモンプロジェクトのみなさん

河川管理者、研究者、建設コンサルタント、工事業者などが、
豊平川のサケのために「それぞれができること」をやっています。
そこに集う皆さんがキーパーソンです。



産卵環境改善方法の現場打合せ

効果（一次効果・二次効果）

観察場所の提供

観察しやすい場所ができたため、河川敷を利用する市民がサケを目にする機会が増えました。

卵の生存率も良好

2017年以降は、環境改善により産卵床数が増え、卵の生存率も良好です。

社会の反響が新たな活力に

新聞社やテレビ局の取材を多くいただいたほか、SNSの反響も大きかったです。

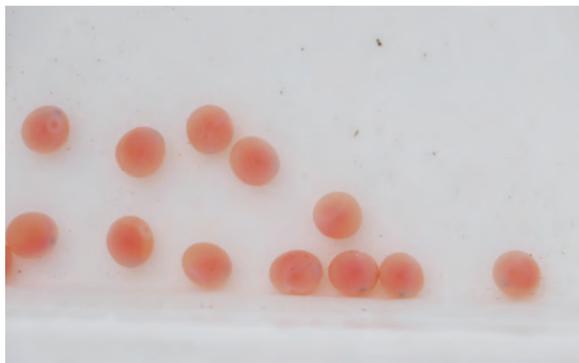
使用材料・工具・造り方



周知看板の設置



テレビや新聞などの取材



生存率を確認した発眼卵



小学校のサケ観察会



工事業者による測量



汚濁防止フェンス